

## 第8章 共汗で取り組む森林景観の保全・再生に向けて

### 1 京都市基本計画に掲げる取組の推進

本市では、平成23年度から平成32年度までを計画期間とする、京都市基本計画「はばたけ未来へ！京<sup>みやこ</sup>プラン」を昨年12月に策定しました。

新しい基本計画は、単なる「行政計画」ではなく、市民、NPO、企業、大学などのさまざまな主体と行政とが夢と希望、危機感と責任を共有し、役割を分担し、共に汗を流して協働する「共汗型計画」として策定しており、三山の森林景観の保全・再生についても、市民やNPO、事業者等との協働による、森林景観づくりを推進していくこととしています。

### 2 ガイドラインに基づく森林景観づくりに向けて

これまで見てきたように、森林は人々の生活と密接にかかわることにより、生活に必要な資源となるとともに、その多面的な機能が人々の生命の安全や心の健康を支えてきました。

森林側から見れば、その健全な姿は人々が森林とかかわりを持つことによって保たれてきました。そこには人々の暮らしと共生する森林の姿がありました。

今、その森林が危機に瀕しています。

それを救うのもまた人々の力です。それは、行政でもあり、事業者でもあり、市民やNPOでもあります。それぞれがそれぞれの立場でできることを考え、また、互いに協力しあうことによって、持てる力を結集していく必要があります。

森林保全活動等に取り組んでいる団体には、「京都伝統文化の森推進協議会<sup>\*1</sup>」や「京都モデルフォレスト協会<sup>\*2</sup>」などが既にあります。

しかし、50年後、100年後を見据えた構想のもとで森林の保全・再生に取り組むためには、より一層機運を高め、全市民的な合意を形成していく必要があります。

そのためには、このガイドラインを広く普及させ、啓発活動を実施するとともに、共汗で取り組む森林景観づくりを進めていくための仕組みを検討し、構築していかなければなりません。

そうすることにより、社寺、大学をはじめとする研究機関、産業界、森林ボランティア活動に取り組んできた多くの市民やNPOが行政と手を取り合って、森林景観の保全・再生を図ることが可能になります。

\*1 京都伝統文化の森推進協議会

「京都の三山の森林景観を守り育てよう」を合言葉に、平成19年12月、林野庁・京都市・支援協力者が協力して設立された団体。東山での新たな森づくりを通じて、伝統文化を大切に発展させることを目的に活動を始めている。京都の森林の望ましい姿の実現に向けて、市民とともに大きな支援の環をつくり、京都のよき文化を日本各地に発信することになっている。

\*2 京都モデルフォレスト協会

京都の森林を、森の恵みを受けている府民みんなで守り育てる京都モデルフォレスト運動を推進するために、新たに設立された組織。森林に関係する団体だけではなく、府民、企業、大学、文化活動団体、ボランティア団体等に幅広く参画を呼びかけ、社団法人として平成18年11月に設立された。